

共通事項 4 播種期及び生育期土壌消毒

作物	病害	薬 剤	作物	病害	薬 剤
きゅうり	苗立枯病	オーソサイド水和剤80	ミニトマト	苗立枯病	バシタック水和剤75 モンカット水和剤
		バシタック水和剤75 タチガレン液剤 モンカット水和剤 ダコニール1000 リゾレックス水和剤 リゾレックス粉剤 バリダシン液剤5	なす	苗立枯病	オーソサイド水和剤80 リゾレックス水和剤 リゾレックス粉剤
	つる割病	ベンレート水和剤	いちご	萎黄病	ベンレート水和剤 トップジンM水和剤
メロン	苗立枯病	オーソサイド水和剤80		炭疽病	ベンレート水和剤
すいか	苗立枯病	オーソサイド水和剤80 タチガレン液剤 タチガレン粉剤 バシタック水和剤75	ほうれんそう	立枯病	タチガレン液剤
		トマト	苗立枯病	さやいんげん	白絹病
トマト	苗立枯病	オーソサイド水和剤80 バシタック水和剤75 モンカット水和剤 ダコニール1000 リゾレックス水和剤 リゾレックス粉剤		ねぎ	白絹病
		萎凋病	ベンレート水和剤	しょうが	根茎腐敗病
			きく	白絹病	リゾレックス水和剤

[備考]

- (1) バシタック水和剤75、モンカット水和剤、ダコニール1000、リゾレックス水和剤、粉剤、バリダシン液剤はリゾクトニア菌に効果がある。
- (2) タチガレン剤は、主としてフザリウム菌、ピシウム菌に効果がある。

共通事項 5 施設野菜のくん煙剤による防除法（省力防除法）における注意事項

処 理 法		薬 剤	処 理 法	薬 剤
くん煙	自然式	トリフミンジェット 10%	常温煙霧法	モレスタン水和剤 25%
		ロブラールくん煙剤 20%		ベンレート水和剤 50%
		スマレックスくん煙顆粒 30%		ロブラール水和剤 50%
		パンチョTFジェット 2%		スマレックス水和剤 50%
		フルピカくん煙剤 15%		トップジンM水和剤 70%
		フェニックスジェット 10%		ボトキラー水和剤
		マブリックジェット 15%		1×10 ¹¹ CFU/g
		モスピランジェット 15%		アフエットフロアブル 20%

[使用上の注意事項]

1. 共通事項
 - (1) いずれの方法も薬剤が高濃度で噴出されるので、人体安全を第一に考慮する。
 - (2) 使用薬剤及び各専用機（器）具の使用法を精読熟知する。
 - (3) 処理は夕刻にハウスを密閉して実施し、翌朝解放して十分換気されるまで立ち入らない。
 - (4) 風の強い日、ハウス内温度が30℃以上の時、ハウス内のモヤや作物のヌレがひどいときは実施を避ける。
 - (5) 定植後2週間以内、幼苗、軟弱作物、特殊な栽培には実施を避ける。
 - (6) 噴出した薬剤が作物に直接あたらないように、設置場所、噴向、作物の遮蔽等を工夫する。
 - (7) 他剤との混用や同日実施はしない。
 - (8) 噴出した薬剤がハウス内に均一に拡散するように、設置場所や障害物の除去等を工夫する。
 - (9) いずれの方法もハウス内の湿度を高めず、また省力的であるが、葉裏への付着が不十分な場合等があるので、適当に手散布と組み合わせて防除効果を高める。
2. くん煙剤法の場合
 - (1) 自然式及びサーチ利用のものは、奥の方から点火し、煙を吸い込まないように手際よく行う。設置個数が多く、点火後半に煙を吸うことになる大型ハウスでは使用をさける。また、“せき込み注意”の表示がある薬剤は、一列配置とするなど使用法を厳守する。
 - (2) サーチを使用する場合、10a 当り小型サーチは15台程度、大型（ジャンボサーチ）は5～6台程度を標準とする。
 - (3) 自然式のもので点火時に炎が出た場合はただちに吹き消す。

- (4) 暖房器くん煙、電熱利用くん煙機（ドクタースモーク）は専用剤（スモーク剤）を使用する。
 (5) 電熱利用くん煙機は畦間の広い中央の通路の手前から1/3～1/5のところから中央に向けて設定する。

4. 常温煙霧法の場合

- (1) ノズルづまりがないように、薬剤は特にていねいに水に溶かし、薬液タンクに移す時は必ず備えつけのろ過器でろ過する。
 (2) 噴霧前に数分間（5分程度）送風を行い、薬剤の拡散を良好にする。
 (3) 吐出量は50ml/分前後が良く、多すぎても、少なすぎても薬効が落ちる場合が多い。

共通事項 6 資材の消毒法

苗箱やハウス用の木枠、支柱などの消毒

1. ケミクロンGによる消毒
 1000倍液に10分間浸漬する。本剤は紫外線下で有効成分の分解が早いので、浸漬後天日乾燥すれば直ちに使用できる反面、直射日光の下では効力の低下が著しいので、作業は日陰で行う。本剤は強力な酸化剤で金属性のものは腐食する。
2. イチバンによる消毒
 500～1000倍液に瞬時浸漬または散布する。消毒後は培土を入れる等の作業に直ちに移れる。
 [使用上の注意事項]
 薬剤の使用に当たっては、手袋の着用、廃液が養魚池、河川等に入らないよう十分注意するなど、取扱・注意事項を守り、安全使用に留意する。

共通事項 7 薬剤耐性菌・抵抗性害虫対策

薬剤耐性菌・抵抗性害虫の発生を避けるため、同一薬剤、同一系統の薬剤の連用、過剰使用を避ける。薬剤の効力低下がみられた場合は他の薬剤、他系統の薬剤により防除する（各薬剤防除一覧表の「作用機構による分類」を参照）。また、薬剤以外の防除手段にも積極的に取り組むことも重要な対策である。

共通事項 8 省エネルギー対策下の病虫害防除対策

果菜類の施設栽培で省エネルギー対策の一環とし、暖房の節減、多重被覆等が行われることにより、ハウス内は日照不足、多湿となり各種の病害発生を助長し、生産上の大きな阻害要因となることが予想されるので、病虫害対策については次の事項に十分留意する。

1. 病虫害防除の一般的注意
 - (1) 病害がまん延してからの防除では防除効率が低いので、予防散布を行うか、発病が少ないうちに早期防除を徹底する。
 - (2) ハウスの換気や排水をはかり、過湿防止に努める。
 - (3) 病茎葉や病果などは発生源となるので、ハウス外に持ち出し、処分する。
 - (4) 窒素肥料の過用や偏用を避ける。
 - (5) つとめて耐病性品種を栽培する。
2. 低温・多湿条件で栽培した場合に多発するおそれのある病害

作物名	病 害 名
トマト	灰色かび病、斑点細菌病、疫病
なす	灰色かび病、菌核病、すすかび病
ピーマン	灰色かび病、菌核病、疫病
きゅうり	灰色かび病、斑点細菌病、べと病、菌核病、黒星病、疫病
メロン	褐斑細菌病、べと病、疫病
いちご	灰色かび病

共通事項 9 殺ダニ剤特性

薬 剤 名	殺卵	殺幼虫 殺若虫	殺成虫	残効	速効 遅効
粘着くん液剤	×	○	○	△	中
アカリタッチ乳剤	×	○	○	△	中
ハッパ乳剤	×	○	○	△	中
フーモン	×	○	○	△	中
エコピタ液剤	×	○	○	△	中
サフオイル乳剤	△	○	○	△	中
アーデント水和剤	×	◎	◎	△	速
ロディー乳剤	×	◎	◎	△	速
マブリックジェット	×	◎	◎	△	速
ペンタック水和剤	○	◎	◎	◎	遅
サンマイトフロアブル	◎	◎	◎	◎	速
ダニトロンフロアブル	×	◎	◎	◎	速
ピラニカEW	◎	◎	◎	◎	速
マイトコーネフロアブル	○	◎	◎	◎	遅
カネマイトフロアブル	○	◎	◎	◎	速
ダニサラバフロアブル	○	◎	○	◎	遅
スターマイトフロアブル	○	◎	◎	◎	速
カスケード乳剤	×	◎	×	◎	遅
アフーム乳剤	○	◎	◎	◎	速
コロマイト水和剤	○	◎	◎	○	速
コロマイト乳剤	○	◎	◎	○	速
アグリメック	×	◎	◎	◎	速
バロックフロアブル	◎	◎	×	◎	遅
ニッソラン水和剤	◎	△	×	◎	遅
コテツフロアブル	◎	◎	◎	○	速
モベントフロアブル	○	◎	×	◎	遅
ダブルフェースフロアブル	○	◎	◎	◎	速
グレーシア乳剤	×	○	○	◎	速